

平成 28 年 6 月 24 日現在

機関番号：14301

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2014～2015

課題番号：26884025

研究課題名(和文) 琉球与那国語敬語体系の記述と、地域コミュニティ言語記述訓練による自然談話資料蓄積

研究課題名(英文) Documentation and Revitalization of Dunan (Yonaguni-Ryukyuan)

研究代表者

山田 真寛 (Yamada, Masahiro)

京都大学・アジア研究教育ユニット・助教

研究者番号：10734626

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：聞き取り調査および自然談話資料から得られたデータを用いて、与那国語の敬語体系を記述し、理論言語学分析を行った。自然談話資料蓄積は、若い世代の与那国島民に言語記述訓練を提供し、彼らと協働して蓄積した。

本研究が島民と協働で行う部分は、言語復興の萌芽的な研究に発展させることができた。与那国島における研究成果を、別の琉球諸語が話されている沖永良部島での研究に応用させ、消滅危機言語の復興研究一般に関する研究に発展させることもできた。シンポジウムや招待講演をとおり、学術研究の成果を地域社会に還元する活動も両島で行った。

研究成果の概要(英文)：This project conducted a documentation and a theoretical analysis of the honorific system of Dunan (Yonaguni-Ryukyuan). "Yonaguni Hoogen Club" was launched and became a place for the language documentation training. The members have been working with the researcher up to now and creating a language revitalization contents such as a picture book in local languages, continuing the text documentation.

The part of this project that collaborates with the local people formed a foundation of language revitalization project. The research result in Yonaguni island has been applied to Okinoerabu island, where another Ryukyuan language is spoken, and expanded to a general research project on language revitalization. I have given invited talks at many places such as elementary and high schools and a series of symposiums in Yonaguni and Okinoerabu islands so that the academic research can reach to the local community.

研究分野：理論言語学、フィールド言語学、言語復興

キーワード：琉球諸語 与那国語 消滅危機言語 言語復興 敬語

### 1. 研究開始当初の背景

世界に 6000 から 8000 あると言われている言語の半数が、「何もなければ」今世紀の終わりまでに消滅すると言われている。日本にはそのような消滅危機言語として、日本語とは別系統のアイヌ語、日本語と同じく日琉祖語にさかのぼることができる八丈語と 6 つの琉球諸語が存在すると UNESCO は報告している。



図 1. 日本国内の消滅危機言語と系統関係

本研究が対象とする与那国語を含む琉球諸語は、2000 年代に入ってから、包括的な文法記述が進められているが、いまだ十分な理解が得られているとは言えない。言語の記録・保存には、辞書、文法書、自然談話資料の三つが不可欠とされるが、さまざまなジャンルの自然談話資料は、特に蓄積が少ない。



図 2. 自然談話資料 (字幕付き動画) の例

また文法記述の側面に関しても、申請者のこれまでのフィールド調査から、与那国語は現代日本語共通語と大きく異なる敬語体系を持つことがわかっているが、敬語体系の全体像の理解には至っていない。さらにこの特異な敬語体系は、地域言語を理解できるが流暢には話せない世代の言語使用を妨げる一因にもなっている。通常は地域言語話者と数えられない若い世代 (30 代 ~ 40 代) は、地域言語産出には至らないが、敬語体系など、

特に理解が難しい文法項目の適切な言語訓練によって、地域言語使用を促進することが可能であると考えられる。彼らの地域言語の学習・(再)獲得は、彼らが地域人口の多数を占め、言語獲得気にある「子の世代」と触れる時間が多いことから、地域言語の復興に特に重要であると言える。

### 2. 研究の目的

これまで申請者が行ってきた文法記述を補うものとして、与那国語の敬語体系を明らかにし、理論言語学的分析を行う。敬語体系に関するデータは、調査票を用いて疑似的な「文脈」を設定して行う聞き取り調査 (elicitation) と合わせて、自然談話資料からのデータを利用した文法調査からも得る。つまり、自然談話資料の蓄積は、文法調査の精緻化と、消滅危機言語の記録両方の目的を持って行うことになる。

自然談話資料の蓄積を効率的に行うため、若い世代の島民有志に言語記述訓練を提供し、彼らと協働で、研究者個人の能力を超えたものを蓄積する。この言語記述訓練によって、彼らの地域言語 (再) 獲得と言語使用の促進も目指す。

### 3. 研究の方法

敬語体系の調査には、調査票を用いた聞き取り調査 (elicitation) と合わせて、自然談話資料からのデータを利用して文法調査を行う。調査票は、予備調査で明らかになっている、発話者、主格項 (日本語では「が」で標示される項)、対格項 (同「を」)、与格項 (同「に」) の社会的上下関係 (年齢差) を独立変項とした実験デザインを組んで制作し、網羅的な文脈を設定する。さらに自然談話資料から得られる「自然な」文脈設定からもデータを補充し、総合的な敬語体系の記述を目指す。

自然談話資料は、若い世代の島民有志に言語記述訓練を提供することによって、彼らと協働で蓄積する。一次資料として母語話者の自然談話の動画記録を収集し、書き起こし、逐語訳、文ごとの意識を付して、言語学的に利用できる二次資料を制作する。

### 4. 研究成果

#### 【与那国語敬語体系の記述】

聞き取り調査および自然談話資料から得られたデータを用いて、与那国語の敬語体系を記述し、理論言語学分析を行った。この成果は、与那国語の敬語表現を含む動詞形態論全体を記述した論文 (論文 ) と文法概説 (論文 ) を含む学術論文 (論文 ) および学会発表 ( 、 ) として発表した。

### 【自然談話資料の蓄積、地域コミュニティへの言語記述トレーニングの提供】

学術研究の成果を地域社会に還元する活動として行った与那国町シンポジウム（その他、 ）で協力者を募り、言語記述訓練を提供した。「よなぐにほーげんクラブ」を立ち上げ、言語記述訓練の場とするほか、毎月の例会で島民どうしが言語復興の取組を相談することを目的とし、現在まで島民によって運営されている。



図 3. 与那国町シンポジウム「島民の手によるテキスト作成を中心とした言語復興（2014年11月4日、6日）」では、参加した母語話者の自然談話をスマートフォンで撮影・録音し、スクリーンに投影したものをその場で母語話者に確認しながら書き起こしを行った。

また、よなぐにほーげんクラブと協働で、動画記録に限らず、地域言語を活用した絵本の制作などを行い、現在も自然談話資料の蓄積が続いている。地域言語を活用した絵本は、制作中のデータを地域読み聞かせ会で利用したり、与那国小学校の特別授業（その他、 ）でも利用したほか、島民が独自によなぐに幼稚園で同様のワークショップを親子教室として開催し、地域言語の世代間継承にも貢献している。



図 4. 与那国小学校特別授業「『プレーメンき ひんだんげ』製本ワークショップ（2016年2月4日）」では、よなぐにほーげんクラブメンバーが担当する小学校4、5年生クラスで、よなぐに幼稚園教諭の創作物語を絵本化した地域言語絵本データを用いて合紙製本を行った。

### 【言語復興のための基礎的研究】

本研究が島民と協働で行う部分は、言語復興の萌芽的な研究に発展させることができた。与那国語の表記法を整備し（論文、 ）本研究の手法を言語復興研究として発表した（論文、発表、 、 、 ）。また、京都大学においてワークショップを開催し（ワークショップ主催、 ）地域言語継承者となる与那国島民4名を招へいた。ワークショップには彼らのほかに、琉球諸島以外の地域でフィールドワークを行っている言語学者や、デザイナー、イラストレーターを含む異分野専門家が参加し、消滅危機言語復興について、異なる立場から意見交換を行った。

与那国島における研究成果を、別の琉球諸語が話されている沖永良部島での研究に応用させ、消滅危機言語の復興研究一般に関する研究に発展させることもできた。沖永良部語上平川集落方言の母語話者などと協働で、詳しいことばの解説と音声CDを付録とした地域言語絵本を出版し（図書、 ）絵本制作時に得られたデータをもとに、表記法の整備を含む文法概説の一部を執筆した（論文、 ）。与那国島と同様に沖永良部島でも、小学校・高校特別授業（その他、 ）地域勉強会招待講演（ ）などをとおして、学術研究の成果を地域社会に還元する活動を行った。また、招待講演やゲストレクチャーなどの形（発表、その他、 、 、 ）で、アウトリーチ活動や異分野への発信を行い、本研究を学際融合的な研究へと発展させている。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計6件)

山田真寛、横山（徳永）晶子. 2016. 「琉球沖永良部語上平川方言（ひょーむに）の言語資料」言語記述論集8. 査読あり.

山田真寛. 2016. 「第12章 ドゥナン（与那国）語の動詞形対論」田窪幸則、John Whitman、平子達也（編）『琉球諸語と古代日本語—日流祖語の再建にむけて』249-279. くろしお出版. 査読なし.

山田真寛. 2015. 「第11章 与那国方言」小川晋史（編）『琉球のことばの書き方』269-289. くろしお出版. 査読なし.

Yamada, Masahiro, Thomas Pellard, Michinori Shimoji. 2015. "Ch.18. Dunan grammar (Yonaguni-Ryukyuan)." Heinrich, Patrick, Shinsho Miyara, and Michinori Shimoji (eds.) Handbook of Ryukyuan Languages. 449-478. Mouton de Grueter.

山田真寛. 「琉球与那国語の敬語体系」日本言語学会第150回大会予稿集。（要旨査読付き学会予稿集）

山田真寛. 「島民による琉球与那国語の自然談話資料蓄積プロジェクト」日本方言研究会第 100 回大会発表原稿集. (要旨査読付き学会予稿集)

〔学会発表〕(計 7 件)

山田真寛. 「コンテンツ制作・利用を核とした言語復興プロジェクト」第 8 回琉球継承言語会. 2016 年 3 月 19 日. 琉球大学(沖縄県中頭郡)

山田真寛. 「言語学から見た地域固有性」農村計画学会. 2016 年 2 月 24 日. 神戸大学(兵庫県神戸市)

山田真寛. 「琉球与那国語の敬語体系」日本言語学会大 150 回大会. 2015 年 6 月 20 日~21 日. 大東文化大学(東京都板橋区)

山田真寛. 「島民による琉球与那国語の自然談話資料蓄積プロジェクト」日本方言研究会大 100 回大会. 2015 年 5 月 22 日. 甲南大学(兵庫県神戸市)

山田真寛. 「与那国語の再活性化」第七回琉球継承言語会. 2015 年 3 月 7 日. 沖縄キリスト教大学(沖縄県中頭郡)

Yukinori Takubo, Tamaki Motoki, Syuntaroo Tida, Masahiro Yamada, Shoji Kajita, Yoshihiko Asao, and Keisuke Yagi. "Constructing a digital museum with a large-scale archive for endangered languages." 4th International Conference on Language Documentation and Conservation. 2015 年 Feb.26-Mar.1, 2015 年 2 月 26 日~3 月 1 日. ハワイ大学マノア校(アメリカ合衆国ハワイ州)

Masahiro Yamada. "Honorific System of Dunan." CREST International Workshop on Formal and Computational Semantics. 2014 年 11 月 28 日. 京都大学(京都府京都市)

〔図書〕(計 1 件)

松村雪枝、山田真寛、横山(徳永)晶子、元木環、浅川友里江. 2016. 『みちやぬ ふうい』ていんがまシリーズ 1. 言語復興の港. 50 ページ.

〔産業財産権〕 無し

〔その他〕

浅川友里江、松村雪枝、山田真寛、元木環. 「『みちやぬ ふうい』製本ワークショップ」2016 年 3 月 22 日. 特別授業(内城小学校、鹿児島県大島郡和泊町)

山田真寛. 「沖永良部のことばの復興」

2016 年 3 月 22 日. 特別授業.(沖永良部高校、鹿児島県大島郡知名町)

山田真寛. 「消滅危機言語の復興、沖永良部のことば」2016 年 3 月 21 日. 酔庵塾招待講演(知名公民館、鹿児島県大島郡知名町)

山田真寛. 「『ブレーメンき ひんだんげ』製本ワークショップ」2016 年 2 月 4 日. 特別授業(与那国小学校、沖縄県八重山郡与那国町)

山田真寛、横山(徳永)晶子. 「消滅危機言語と言語の再活性化: また元気になってね琉球のことば」2015 年 7 月 24 日. ゲストレクチャー(熊本県立大学文学部、熊本県熊本市)

Masahiro Yamada. "Linguistic Diversity." 2014 年 11 月 24 日. ゲストレクチャー(京都大学農学部、京都府京都市)

Masahiro Yamada. "Documentation and Revitalization of Endangered Languages." 2015 年 4 月 27 日. ゲストレクチャー(名古屋大学文学部、愛知県名古屋市)

名倉剛志、濱田佳祐、山田真寛. 「どうなんむぬいデザインワークショップ」2015 年 3 月 26 日. 与那国町シンポジウム「与那国のことばを語り継ぐために その 4」(佐久川家、沖縄県八重山郡与那国町)

山田真寛. 「どうなんむぬい辞書を作るワークショップ」2015 年 3 月 22 日、26 日. 与那国町シンポジウム「与那国のことばを語り継ぐために その 3」(22 日佐久川家、26 日比川協働売店、沖縄県八重山郡与那国町)

山田真寛. 「島民の手によるテキスト作成を中心とした言語復興」2014 年 11 月 4 日、6 日. 与那国町シンポジウム「与那国のことばを語り継ぐために その 2」(佐久川家、沖縄県八重山郡与那国町)

〔ワークショップ主催〕

山田真寛. 「消滅危機言語復興のためのワークショップ」京都大学「百家争鳴プロジェクト」採択企画.

## 6. 研究組織

研究代表者

山田 真寛 (YAMADA, Masahiro)  
京都大学学際融合教育研究推進センター  
アジア研究教育ユニット

特定助教

研究者番号: 10734626